

令和4年1月7日

報道機関 各位

第28回「人文知」コレギウム 「いま、語り伝えたいこと」

■ 概要

富山大学人文学部は、学部教員による研究会「人文知」コレギウムを定期的を開催しております。富山県の「人文知」の拠点として、人文研究のさらなる高みを目指して、様々な分野の教員が集い、相互に研究交流を図ります（※「コレギウム」は「仲間たちの集い」という意味）。

来る令和4年1月26日（水）に開催予定の第28回では「いま、語り伝えたいこと」をテーマに研究発表を行います。（詳細は、別添チラシをご参照ください）

■ 日時・場所 他

本研究会は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、両回ともオンラインでの開催（Zoom）を予定しております。（定員290名 ※事前登録が必要です）

第28回（令和4年1月26日（水）、オンライン開催）

齊藤大紀「天鷲絨の哀愁——富山県入善町出身の歌手・津村謙の生涯」	13:30-14:30
秋田万里子「母性という隠れ蓑—Cynthia Ozickの“The Shawl”における信頼できない語り手によるホロコースト・ナラティブ—」	14:30-15:30

一般の方々や学生の聴講も可能です。多くの方々のご参加をお待ちしております。
つきましては、取材・報道方よろしくお取り計らい願います。

【本発表資料のお問い合わせ先】

富山大学人社芸術系事務部人社系総務課（人文担当）
TEL. 076-445-6131
ウェブサイト：<https://www.hmt.u-toyama.ac.jp/>

第28回 人文知コレgium

——いま、語り伝えたいこと——

齊藤大紀(中国文学・教授) 13:30-14:30

天鷲絨の哀愁

——富山県入善町出身の歌手・津村謙の生涯

富山県下新川郡新屋村(現入善町)出身の津村謙(1923-61)は、「上海帰りのリル」をはじめとする数多くのヒット曲をもつ、戦後期の日本の歌謡界を代表する歌手の一人であった。津村は、「ビロードの唄声」と讃えられた美しい高音を持ち味として、焼跡から復興してゆく日本の都市の哀愁をうたうことを得意としていた。この報告では、津村の生誕百周年を前に、入善町コスモホールに所蔵される津村謙関連資料の調査の成果も新たに加えて、その人生をたどりつつ、津村が目指した流行歌のありかたを考えたい。



秋田万里子(アメリカ文学・講師) 14:30-15:30

ユダヤ系アメリカ文学、ホロコースト

アメリカ生まれのユダヤ系作家 Cynthia Ozick (1928-) の代表作 “The Shawl” (1980) は、強制収容所における母と娘の悲劇を描いた短編である。本作ではポーランドのユダヤ人 Rosa の視点を通して語られるが、その中で、娘 Magda に対する Rosa の母性がたびたび強調される。先行研究は主に、Rosa が娘に対し愛情深く献身的な母親であることを前提に考察されてきた。しかし “The Shawl” における Rosa の母性には、娘に対する純粋な愛情だけではなく、その信頼できない語りの陰にネガティブな感情や思考を隠蔽しようとする Rosa の意図が窺える。

本発表では、主に短編 “The Shawl” における語り的手法に着目し、母性の強調によって隠された Rosa の真意を解き明かす。そして本作において、強制収容所における非道さ・残虐さを語るために、母性のイメージがどのように機能しているかを考察する。



以下の QRL または URL から事前申し込みをお願いします。



https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeIpdIs34n-dZug8wVHpmKozFQZxi7JXh_yo0vn5xQvE7udPg/viewform?vc=0&c=0&w=1&flr=0

日時 2022年1月26日(水)

13:30-15:30 オンライン

お問い合わせ 富山大学人文学部人社系総務課(人文担当)
jinbuns@adm.u-toyama.ac.jp